

今年の学園祭は「IDOBATA」&「ONAKAMA」？



「同じ釜のメシ」の連帯感。ONAKAMA がたくさんできました。

今年で5回目になる学園祭。毎回どうすれば市民大学らしいイベントになるか知恵を絞ってきました。そこで今回は、「ソーシャルIDOBATA会議」と「ONAKAMAおむすびランチ」の2本立て。IDOBATA会議では、つくば周辺地域のソーシャルな分野で活躍中の「社会を変える実践者」10名による3分プレゼンのあと、会場の参加者と合流、I=アイデア DO=どんどん BA=バンバン TA=たくさん出すためのグループ対話で、各々の活動の未来に向けてさらなる一歩を踏み出しました。昼食休憩は「ONAKAMA おむすびランチ」。みんなで「同じ釜のメシ(=ONAKAMA)を食べて、ONAKAMA(=お仲間)になろう」という、市民大学流パワーランチです。たっぷりのご飯と様々な具材が並ぶ中、思い思いにおむすびづくり。作りながら、おしゃべり、食べながら、おしゃべり、席替えて、おしゃべり、と笑顔がたえない楽しいひとときになりました。

この夏、市民大学が大きく変わります！

学園祭と同じ6月12日、つくば市民大学を運営するユニベルシタスつくばの通常総会が開催され、すべての議案が承認されました。今年度からつくば市民大学は、「シチズンシップを磨きあう」場として、大きく生まれ変わることとなります。シチズンシップ(市民性)とは、私たちがともに生きる社会をつくりかえる際に必要となる、一人ひとりの主体的な〈かんがえかた〉〈ふるまいかた〉です。具体的な変更としては、現行の「公開講座」「主催講座」「共催講座」「自主講座」「会場使用」という5区分を、「主催講座」「サークル/サロン」「会場使用」という3区分に改め、「サステナビリティ」「ダイバーシティ」「コミュニティ」「メソドロジー(方法論)」の4テーマを設定し、運営委員会が主導する形で、年間カリキュラムを設け、シチズンシップ開発の基盤となる講座を随時開催していくことになりました。新しい市民大学、詳しい講座内容は同封のご案内をご覧ください。



対話で「シチズンシップ」を育む場として、リスタートします。

常総水害から学んだ「みんなで防災@つくば」



被災者支援の最前線にいた横田さんの話を真剣に聴く参加者

昨年9月の常総水害からまもなく1年。どこか「あれはもう過去のこと」としている雰囲気がありますが、被災された方々の生活は、まだまだ困難が続いています。7月3日に開催された「みんなで防災@つくば」では、常総水害でボランティア・物資のコーディネート、避難所運営、身障者や外国人などの災害弱者への支援を続けている茨城 NPO センター・ commons の横田能洋さんを話題提供者にお招きし、「避難所に行く？家に残る？」「避難所の環境を考える」という2つのテーマについて話し合いました。災害時・復旧期に求められるのは「困っている、助けてほしい」と SOS を迅速に発信する「受援力」、支援のニーズを的確に把握し行動する「支援力」が大切。声をあげにくい人、情報にアクセスしづらい人々のことも常に念頭に置き、「その時」に備えて、互いの防災意識を高めあいました。

つくば市民大学はこんな人たちがやっています！

～ 大野覚さん ～



つくば市民大学の発展・成長のために、定期的に会議を開き、熱心に活動方針を話しあい、講座企画・運営を先頭となって引っ張ってくれている5名の幹事のみなさん。普段はなかなかオモテに出ることはありませんが、「市民大学ってどんな人たちがやっているの？」という会員のみなさまの素朴な疑問にお応えして、ユニベルだより紙上で、幹事の方々のプロフィールをご紹介します。

今回登場するのは、県内の多くの NPO 団体の運営や支援に多方面から尽力している大野覚さんです。

●出身地

茨城県鹿嶋市

●好きなこと

中古レコード収集(ジャズ、ソウル、ファンクなど)、サッカー観戦

●市民大学で企画した講座

「助成金申請のコツ」セミナー/NPO 会計基礎セミナー/NPO 組織基盤強化セミナー/マイナンバー・セミナー/常総の被災者支援ボランティア入門セミナー/子どもの貧困に関するセミナー など

●市民大学以外での活動

茨城NPOセンター・コモンズ事務局長。

市民活動の相談対応や講座開催、イベントの企画・運営、行政の協働推進施策・事業支援、企業の CSR 活動支援などを担当。

専門は市民活動団体の資金調達、広報、米国の市民活動事例紹介など。

NPO 法人 フードバンク茨城理事長、NPO 法人 セカンドリーグ茨城監事、社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会評議員、社会福祉法人 茨城県共同募金会評議員、茨城県ボランティアセンター運営委員会委員、鹿嶋市協働のまちづくり推進委員会副委員長、水戸市協働推進委員会委員も務める。

●今後の抱負

2016年11月に第1子が生まれる予定です。

NPOの世界では、職員として働く男性の「寿退社」が少なくありませんが、ワーク・ライフ・バランスを迫り、小さい子を抱えながら無理なく働ける職場をどうやってつくるかが当面のテーマです。

夏休み親子講座 やってみよう！

「世界がもし100人の村だったら」

～If the world were a village of 100 people～

世界には約70億の人が暮らしていますが、それを100人に縮めてみたらどうなるでしょう？

この世界のどこかに暮らす一人になってみるゲームを通して、世界の多様性や格差を体感してみましょう。

【保護者の方へ】

この講座は、メールメッセージで広がった「世界がもし100人の村だったら」を使ったワークショップです。

実際に身体を使いながら世界の格差や多様性を体感するこの教材は、2003年の初版発行以来、発行部数が1万冊を超え、全国の小中学校などで活用されています(「国際人権教材アワード2004」受賞教材)。

夏休み、「世界」について親子で話しあってみませんか？

■講師 八木亜希子さん(NPO法人 開発教育協会)

■日時 2016年7月31日(日) 10:00～12:00

■対象 小学校高学年のお子さまと保護者の方

■参加費 無料 ※詳細は同封のチラシ参照

代表幹事・徳田の「オススメの一冊」

北田暁大・白井聡・五野井郁夫(著)

『リベラル再起動のために』(2016年6月・毎日新聞出版)

この「ユニベルだより」がお手元に届く頃には、すでに参院選の結果が出ていることでしょう。

表面的には争点とはされていませんでしたが、実質的には、近代が育んだ諸々の(価値)の扱いこそが最大の争点だったように思います。憲法学者の本秀紀さんは、現在進行中の事態を「平和主義・立憲主義・民主主義の三位一体的破壊」と表現していますが、そのように(近代的諸価値)をかなぐり捨てていく道を、力強く、前へ進めていくのか、それとも、いったん立ち止まるのか。はたしてこの夏、私たちは、どのような選択をしたのでしょうか。

本書の著者三人は、後者、すなわち現状への対抗軸を打ち出す側にあるのですが、その一点をもって、かくも立脚点を異にする三人を粗雑にも「リベラル」と括らざるをえない、そのこと自体、「リベラル」の退行局面を如実に表しています。

それでも、再起動は可能なのか？ だとすればどのように？

…(選前)の鼎談を(選後)に読むからこそ、見えてくるものがあるかもしれません。(徳田)

スタッフよりヒトコト

4月からユニベル事務局長兼幹事の赤松です。先日、柏で各地の市民大学が会するコミュニティカレッジバックステージに参加してきました。私たちは市民による活動ですが、行政主導のところもあり、担い手や事業内容など違うこともあります。広く市民を巻き込みたいという思いは共通。今年度からユニベル会員のためにサークル/サロン活動枠を設けました。定期的な活動は無料で会場使用できます。ご利用ください(「市民大学へのおさそい」参照)。

つくば市民大学

〒305-0033 つくば市東新井 15-2 ろうきんビル 5階

TEL: 029-828-8891 Fax: 029-828-8892

e-mail: info@tsukuba-cu.net Twitter: @tsukuba_cu

web サイト・Facebook: 「つくば市民大学」で検索